

海外安全対策情報（2024年7月～9月：コロンビア）

1 一般犯罪・凶悪犯罪の傾向

（1）全般

2024年第三四半期の犯罪統計によれば、殺人事件は約4%、強盗・窃盗事件は約20%減少した。一方で、詐欺・恐喝事件は約26%増加しており、過去4年間で一貫して増加傾向にある。詐欺・恐喝事件増加の主な原因は、主に、クラン・デル・ゴルフオ等の犯罪組織の勢力拡大及びインターネット等を利用した犯罪の容易性が挙げられる。詐欺・恐喝の主な手口は、日本のオレオレ詐欺に相当する Llamada tío もある一方で、首領が刑務所から通信機器を利用して外部の共犯者に恐喝を指示する刑務所恐喝（Extorción Calcelaria）や、偽の役務提供を理由に被害者を誘い出し、一時的に身柄を拘束した上で、身代金名目で少額の金銭を要求する偽サービス（Falso servicio）等日本にはない手口も見られる。

また、大手通信販売メーカー等の偽サイトを作成し、クレジットカード情報等の個人情報の入力を誘導するフィッシング詐欺もあることから注意が必要である。

強盗・窃盗の具体的な被害防止策としては、人気のない道路は日中でも注意する、身の回りの物から目を離さない、怪しい人物に狙われていないか注意する、乗車中に信号等で一時停止した場合でも不審者が付近にいないか確認する、むやみに車の窓を開けない（物乞い等に施しを与える場合にも直接手渡さない）等、常に警戒を怠らない心構えが必要である。万が一、強盗やひったくりに遭った場合は、生命を第一に考え、絶対に抵抗せず、盗まれた物を取り返そうとはしない。

（2）邦人犯罪被害事案

・ 強盗事件

8月中旬、日中に短期旅行者がカリ市内を歩いていたところ、見知らぬ男から「日本人か。」と声をかけられたため仲良くなり、男の家に招待されて行ったところ、その男を含め計4名の男に囲まれた上、銃を突きつけられ現金、携帯電話等を強取された。

・ 昏睡強盗事件

8月中旬、夜に短期旅行者がボゴタ市内のバーにおいて、1人で酒を飲んでいたら、見知らぬ男2名から「どこから来た。」等親しげに話しかけられ酒をおごってもらった。意識が混濁する中、男らと一緒にバーを出て車に乗ると更に男女1名ずつ乗車していたが、その後記憶がなくなり、目が覚めたら病院のベッドの上にあった。所持品を確認したところ、現金、銀行カード入りの財布、携帯電話等がなくなっていたことから、おごってもらった酒に睡眠薬等が混入していたと思われる。

2 テロ・爆弾事件発生状況・関連報道

2024年第三四半期のテロ行為は前年比同水準であるものの、バジェ・デル・カウカ県、カウカ県、ノルテ・デ・サントアンデル県、アラウカ県等では爆弾テロが散発的に発生していることから、十分注意が必要である。

いくつかの違法武装勢力や犯罪組織が現政権との和平交渉に応じる一方で、EMC（中央参謀本部、FARCの分派）とは交渉が中止され、ELNとの交渉は進展が見られない状況である。この影響により警察署や軍の基地等、治安部隊に対する攻撃が頻発している。よってこれらの場所には不用意に近づかないことが大切である。

近年の主なテロ・爆弾事件としては、ボゴタ市では2017年6月、ショッピングセンター「アンディーノ」においてフランス人女性を含む3名が死亡する無差別テロ事件が発生、2019年1月、市内の警察学校内で学生22名が死亡するELNによる自動車爆弾が発生しているほか、上述の2022年3月26日のボゴタ市南部のシウダー・ボリーバルの交番（CAI）の爆弾テロでは、付近にいた児童2名が死亡、勤務中の警察官1名を含む25名が負傷、交番付近の家屋等約50戸に物的被害が生じており、今後もテロへの警戒は必要である。

2024年

- ・ 7月19日 バジェ・デル・カウカ県ハムンディ市のロブレス警察署付近でバイク爆弾が爆発し周辺の建物が損壊。
- ・ 8月12日 メタ県マピリパン市で、プエルト・アルビラ陸軍基地が飛しょう弾で攻撃される。
- ・ 8月22日 バジェ・デル・カウカ県カリ市南部の軍施設において車爆弾が爆発。

3 誘拐・脅迫事件発生状況

2024年1月から9月の誘拐は前年比で約11%減少しているものの、都市部では犯罪組織による偽装タクシーを使用した短時間誘拐の犯行もあることから、タクシーアプリや無線タクシーを利用し、流しのタクシーは利用しない等の注意が必要である。